学校番号	3011

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	7 実教　歴総 007-902 歴史総合〔新訂版〕（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現代社会で起こっている様々な問題の背景には、過去の歴史（特に近現代史）が大きく影響している。学習する様々な出来事について、「なぜ」そうなったのかという観点を大切にし、因果関係を理解すること。歴史を大局的な視点でみることで、現在の社会情勢の理解や今後の未来予測が可能となる。

2　学習の到達目標

【知識・技能】
・出来事の因果関係を知ることで、歴史への興味や関心を高める。
・当時の「写真」や「風刺画」を通して、歴史的な思考力を養う。
【思考力・判断力・表現力等】
・学んだ知識を活用し、大局的視点で歴史をまとめることにより思考力・表現力を養う。
・近現代史を中心とする歴史を学び、それを現代の諸課題と結び付けることで、歴史的観点から考察する力を養う。
【学びに向かう力・人間性等】
・「世界の中の日本」とう観点から歴史を学び、国際社会に生きる日本人として客観的に情勢を見る資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界と日本の歴史について、時間軸を正しく捉えつつ基本的な事柄を理解している。また、地理的条件や国際関係とも関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	近代化，国際秩序の変化や大衆化，グローバル化などの歴史の変化と，日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し，表現している。	「世界の中の日本」という意識を持ち、国際社会の一員として自覚を高める。また、現代の諸問題への当事者意識を高め、解決に向けて検討できる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	近代化への胎動	・幕藩体制 ・江戸幕府の政治改革 ・異国船の接近と幕府の対応 ・清と朝鮮の対外関係	a: 江戸時代の身分や政治的背景。異国との対外関係について理解し説明することができる。 b:日本・清・朝鮮それぞれの場合に分けて,共通点や相違点をふまえながら多面的・多角的に考察することができる。 c:環境の変化が世界史にどのような影響を与えるのか主体的に追究して,学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度
	欧米の市民革命と西洋の衝撃	・イギリスの産業革命とアメリカ独立戦争 ・フランス革命とウィーン体制 ・アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	a: イギリスの資本主義社会の問題点を説明することができる。 各国の独立への動きや革命について説明することができる。 b: 炭田・鉄の産地・鉄道・運河がイギリス産業革命で果たした役割,イギリスで最初に産業革命が発生した理由について多面的・多角的に考察することができる。 c:「アメリカ独立戦争の影響をを追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度
		・アヘン戦争の衝撃と日本の開国 ・江戸幕府の滅亡	a:アヘン戦争から江戸の幕府の滅亡までそれぞれの年に起きた出来事を説明することができる。 b: ペリー来航を契機に日本の政治体制どのように変化したか。また、江戸幕府はなぜ滅亡したのかを多面的・多角的に考察することができる。 c: 幕府と地方政権である藩との関係と現代の日本政府と都道府県との関係を比較追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度

2学期	欧米諸国と日本の国家形成	・イギリス、フランスの繁栄 ・イタリアとドイツの統一	a:19 世紀にヨーロッパ諸国でどのような政治上の動きがあったかを説明できる。 b: イタリアとドイツの統一運動にみられた共通点と相違点について多面的・多角的に考察することができる。 c: 現在のイギリスやフランスの旧植民地との関係，現代のドイツやイタリアの地域差を19 世紀と比較し追究して，学習上の課題を解決しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度
	帝国主義の時代	・明治の改革と文明開化 ・自由民権運動と大日本帝国憲法	a:自由主義などの西洋思想や説明することができる。 b:「自由民権運動での理想は，大日本帝国憲法にどのように反映されたのかを多面的･多角的に考察することができる。 c:女性の権利について、男女のあり方という現在にも繋がる大きな問題を追究し，学習上の課題を解決しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度
		・帝国主義の時代へ ・日清戦争とその後の東アジア ・日露戦争と東アジアの変動 ・日本の産業革命	a:アメリカが太平洋に進出した理由を，アメリカの国内事情や西洋諸国の動きと比較して説明することができる。 b:ヨーロッパの人々の考えはアフリカやアジアの人々をどのように扱うことにつながったのかを多面的･多角的に考察することができる。 c:戦争によって人々の気持ちはどのように変化するのか、為政者は国際関係や戦争をどのように利用するのかという問題を追究し，学習上の課題を解決しようとしている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度

3学期	第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦 ・ロシア革命とソ連の成立 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・ひろがる社会運動と普通選挙の実現	a:世界大戦の因果関係や、大戦による世界への影響を理解することができる。 b:ヴェルサイユ体制やワシントン体制などから、アメリカの狙いを条約内容などから考え、第二次世界大戦へつながるよう大局的視点を持って考察する。 c: 先進国・発展途上国など現代に続く各国の国際関係の背景を知り、現代社会の問題を根底から考えられるよう、国際社会の一員としての自覚を高める	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度
	経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・ファシズムの時代 ・満州事変と軍部の台頭 ・第二次世界大戦の勃発と終結 ・国際連合との成立と冷戦 ・日本占領と日本国憲法	a: 正しい時間軸を持ちながら、世界恐慌がなぜ発生したか、各国にどう影響したかを、第二次世界大戦に結び付けて理解することができる。 b:「第一次大戦後の世界」の反省から、「第二次大戦後の国際秩序」がどうつくられるべきか考え、実際の秩序と比較し課題点などを、現在を含め考察し表現できる。 c: 大戦を通してアメリカやソ連が台頭し、現代の社会情勢の根底に結び付けてとらえられている。	・定期考査	・定期考査 ・課題プリント	・課題プリント ・授業プリントの完成度 ・授業への積極的な態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度